

# 乗雲

寺報 第66号

H17.9.10 発行

広蔵寺

〒959-2646 新潟県

胎内市西栄町 2-8

TEL0254-43-2419

FAX0254-43-4560

振替

00650-4-5381

住職 神田英俊

E メールアドレス

tera@kogonji.jp



檀信徒発願浄財により六体地藏尊を建立

春は花 夏ほととぎす 秋は月

冬雪さえて すずしかりけり

「本来の面目を詠ず」

昭和四十三年スエーデンのストックホルム・アカデミーでのノーベル文学賞受賞記念講演で川端康成氏は『美しい日本の私』と題して講演し、その冒頭にこの歌を引用されている。

道元禅師は宋から帰国後、宇治興聖寺を開き、その後越前に永平寺を建立して専ら修行僧の指導と自らも禅の修行に励まれていたが、鎌倉幕府、時の執権北条時頼の懇願により宝治元年（一二四七）八月より翌年二月まで鎌倉へ出向き広く禅の教えを説いている。「詠本来面目」は滞在中、時頼の願いによって十首詠んだうちの一つとされている。鎌倉での禅師の思いを感じ取るため、今年六月に檀信徒四十二名で「道元禅師鎌倉御行化顕彰碑」始め各所を参拝した。禅師は権力のもとでの布教の容易ならぬことを感じ、わずか七ヶ月で深山幽谷の永平寺にもどられている。

春は花咲き、夏にはほととぎすが鳴き、秋は月美しく、冬は雪が深々と降り積もる。季節ごとにそれぞれの姿があるからこそ「すずしかりけり」清らかなあるがままの姿として詠まれた。永平寺への思いが伝わる一首です。

人間の一生にも季節がある。若くイキイキと活動している季節、老いて力及ばない季節、喜びにあふれる季節、悲しみて心しずむ季節、喜怒哀楽様々な姿を見せてくれるが、その場その時の事実をそのまましっかり受け止め、真剣に精一杯生きる姿こそ清々しく美しいものである。

本来の面目とは「今日ただ今を精一杯生きる」ことを言つ。